

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 曽根 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

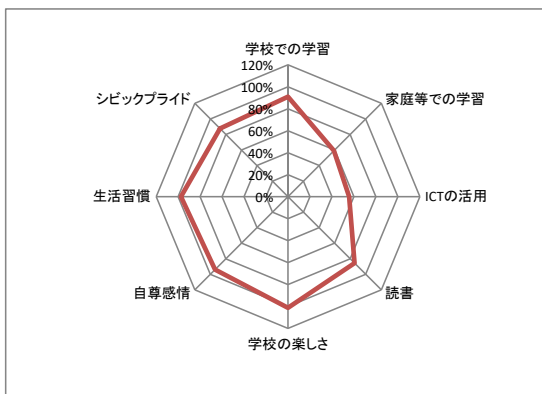
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を上回っていた。特に、言葉の特徴や使い方に関する事項や、「読むこと」に関する、短答式・記述式の問題の正答率が高かった ・資料の内容を読み取る選択式の問題で全国平均を下回った。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・自分がこれからどのように本を読みたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く問題	
	努力が必要な問題	・インタビューの前に準備したメモについて説明したのとして適切なものを選択する問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を上回っていた。特にデータの活用の領域に関しての選択式問題の正答率が高かった。 ・図形の領域の記述式問題で全国平均を下回った。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める問題	
	努力が必要な問題	・2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する問題	
英語	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を上回っていた。特に「読むこと」の領域の知識・技能を問う問題の正答率が高かった。 ・「書くこと」領域の知識・技能を問う短答式の問題が全国平均を下回った。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題	
	努力が必要な問題	・メールの英文を依頼する表現に書き換える問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「友達関係に満足している」との問いに対して90%以上の生徒が肯定的に回答している。 ・土日を含めた家庭学習の時間に課題が見られた。基礎的・基本的な学習内容の定着のために、家庭学習を充実させるための取組を行う必要がある。 ・「授業でどの程度ICT機器を使用しましたか」という問いに対する回答から、タブレットの活用が進んでいないことが分かる。タブレットを有効に活用する必要がある。 ・人の役に立ちたいと望む生徒が90%を超える一方で、「自分にはよいところがある」に対しては70%しか肯定的な回答をしていない。自己肯定感を高める取組が求められる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・教科の特性に応じ、個人で「自分の意見をもち、考えを書く活動」を計画的に取り入れ、タブレット端末を活用した「意見交流や学び合い」の活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりできるようにする。・文化発表会の「学び方講座」を継続したり、イチコレノートコンクールを実施したりして、家庭での学習について生徒同士で情報交換できるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・自己肯定感を高めるために、学校では学級の一員としての存在感や、やり遂げることで達成感をもつことができるよう指導するが、家庭でも生徒の頑張りを認め、励ましてもらえるよう通信や学校HP等を通じて発信する。
・学期ごとに読書週間を設定したり、文化発表会でのビブリオバトルを継続したりして読書に親しむ生徒を増やす。